



## 臨床医学研究のお知らせ

聖路加国際病院では、将来の医療を向上させるため、臨床医学研究を行っています。つきましてはご理解の上、ご協力をお願い申し上げます。なお、個人情報 は 厳重に管理させていただきます。

研究計画や研究方法に関する資料をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体の目的や進行に支障となる事項以外はお知らせすることができます。ご質問がありましたら下記連絡先にお問い合わせください。

この調査では、ご協力を拒否することも自由です。もし、研究へのデータ・試料の利用を望まない場合は、下記の連絡先までご連絡いただくか、医療スタッフへ申し出てください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

### **【照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先】**

住所：〒104-0044 東京都中央区明石町 9-1

電話：090-9625-6342

担当者の所属・氏名 聖路加国際病院 臨床研究室 丸山詩音

### **【研究責任者】**

聖路加国際病院 臨床研修室 丸山詩音

### **【研究分担者】**

聖路加国際病院 感染症科 渋谷 晃子 (指導医)

聖路加国際大学 公衆衛生大学院 磯矢 嵩亮

聖路加国際大学 公衆衛生大学院 熊谷 悦子

聖路加国際大学 公衆衛生大学院 高橋 エミリー

# 菌血症と診断された患者さんを対象とした

## 入院期間に関する研究

### 1.研究の対象

2011年1月～2024年3月に当院に入院された65歳以上の方で、入院中血液培養でグラム陰性桿菌\*<sup>1</sup>が検出された方。

\*1 グラム いんせいかんきん 陰性桿菌とは、私たちの体に害を与える可能性のある細菌の一種です。

この細菌は細長い形をしており、特殊な染色方法で見分けることができます。

### 2.研究の目的・方法

高齢の方の感染症では、全身の状態や他の病気、体の機能や認知機能、療養環境やリハビリなど、様々な要因が回復に影響を与えると考えられています。今回私たちは、血液検査で病原菌が見つかる状態である「菌血症」に着目しました。菌血症は、高齢になるほど発生率と死亡率が上がるということが分かっています。この研究の目的は、グラム陰性桿菌による菌血症で入院された高齢の患者さんの入院期間が長くなる要因を、幅広く特定することです。具体的には、感染症自体に関する要因だけでなく、全身の状態や他の病気、体の機能や認知機能、療養環境やリハビリなど、様々なリスク要因を総合的に調査します。

高齢の方がグラム陰性桿菌による菌血症になった場合の予後に影響する要因を包括的に特定し、それに適切に対処することで、入院期間を短くし、医療資源を効率的に利用できるようになることが期待されます。

なお、この調査では通常の保険診療以外の医療行為はなく、診療録（カルテ）に記載される内容についての調査のみとなります。

調査期間は当法人 研究機関の長による実施許可後～2025年3月31日までの予定です。該当データの利用は、2024年8月5日を予定しております。

### 3.研究に用いる試料・情報の種類

主なデータ項目は以下となります。

《情報》 カルテ ID、年齢、性別、血液検査や尿検査や細菌検査の結果、感染症に関する情報（原因となる細菌の種類など）、使用した抗生物質の種類と期間、基本的な身体情報（性別、体格など）、既往歴（がん、糖尿病、心臓病、脳卒中など）、日常生活の自立度、入院中の治療やケアの内容（リハビリテーションなど）、認知機能や栄養状態、入院前の生活環境、入院期間や治療結果等